

1 第20回参議院議員通常選挙

平成16年（2004年）6月24日、第20回参議院議員通常選挙が公示された。今回の通常選挙には、比例区、選挙区合わせた改選数121に対し320名が立候補し、第159回国会において改正法が成立した年金問題やイラクにおける自衛隊の多国籍軍参加の是非などを主な争点として争った。

7月11日の投開票の結果、民主党が大きく議席を増やし、共産党が大きく議席を減らした。衆議院に続いて参議院においても2大政党化の傾向が強まった。

投票率（全国平均）は、比例区56.54%、選挙区56.57%となり、前回の通常選挙よりも上回ったが、過去4番目に低い投票率となった。なお、今回の通常選挙は、従来の不在者投票よりも手続を簡素化した「期日前投票制度」導入後初の国政選挙（補欠選挙を除く）となったが、この制度を利用して約717万人が投票した。

平成13年の通常選挙から始まった定数削減は、今回の選挙で比例区2、選挙区3の計5議席削減することにより達成され、7月26日（新たに選出された議員の任期開始日）から参議院議員定数は242となった。

各党の獲得議席数は以下のとおりである。

政党名	獲得議席	改選前議席	増減
民主党	50	38	+12
自由民主党	49	50	-1
公明党	11	10	+1
日本共産党	4	15	-11
社会民主党	2	2	±0
みどりの会議	0	1	-1
無所属	5	4	+1
無所属の会	—	4	-4
欠員	—	2	-2
改選数計	121	126	-5

※改選前議席数は第159回国国会会期終了日現在の政党所属議員数であり、会派所属議員数とは必ずしも一致しない。また、「無所属の会」については、今回、立候補者はいなかった。